

IGCJ アドホック会合
2015年9月1日



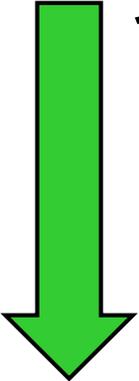
IANA監督権限移管に関する 提出意見草案のご説明

IANA監督権限移管提出意見検討チーム
前村 昌紀

提案の要点

- 3資源(プロトコルパラメータ・番号資源・ドメイン名)ごとに、IANA機能運営者との間で契約を結び、サービスレベルを取り決める
- 各資源の運営コミュニティ(IETF・RIRs・ICANN)を代表するグループ(IAB・レビューコミッティ・レビューチームなど)がサービスレベル適合を監視

提出意見草案検討の方針と要点

- 
- 広くさまざまな関係者に賛同していただける、概括的な支持を示す
 - NTIA要件への適合など、細部の是非に触れない
 - 提案ドラフトの大枠とインターネットを発展させてきた文化から、支持を打ち出す
 - 以下のポイントから支持と歓迎を打ち出す
 - NTIAの関与がなくなることで、「コミュニティの直接関与」を旨とする「インターネットのやり方」に近づく
 - それはこれまでの標準策定、資源管理方針策定で実証されている

提出意見草案の骨子 (設問12への回答)

<http://igcj.jp/news/faq-20150831.html#q8>

- 本提案に伴い、オープン、インクルーシブ、ボトムアップなプロセスの精神を担っている運用コミュニティの代表者(IETF、ICANN、RIR)に監督権限が移管される。これらの精神が、健全なインターネットの基盤方針の策定を支えてきた。
- 各運営コミュニティは、三つのIANA機能それぞれにおいて標準策定、資源管理の責任を担ってきた実績を持っており、より好ましいインターネット基盤運営体制が確立されるものと考えている。
- すなわち、誰もが参加できる各運用コミュニティがIANA機能の監督に関わりを持つことによりグローバルな公益が担保され、これまでの実績に基づき、IANA機能の監督に関しても同様に責任を持って取り組むことが十分期待できる

- Individual participants of Internet Governance Conference Japan (IGCJ)
 - 「賛同者募集モデル」(IGCJ7で提案したモデル)
 - 意見提出は「IGCJという主体」ではなく、「IGCJを通じた賛同者」
- 期限までに賛同を寄せられた方々のお名前(所属名などなし)を列挙する

本日の議論のポイント

- 不明点の解消
 - 提案ドラフトの内容
 - 提出意見草案の内容
- 提出意見草案の改善
 - ICGに対するメッセージとして
 - よりたくさんの方々賛同を得られるために
- 意見提出者名義に関して